

大学生柔道競技者における柔道実践の動機づけの多様性

順天堂大学  
スポーツ健康科学研究科  
学籍番号：4118019  
氏名：佐々木 康允

【目的】

全日本柔道連盟の指導者養成テキストでは、指導者には多様な価値観を寛容に受け入れる姿勢が求められることなどが示されている。このことから、柔道競技者がそれぞれに持つ多様化した動機づけを明らかにするが重要である。柔道競技実践の動機づけに関する報告は散見されるが、その内容は先行研究で様々である。また、柔道競技者からの自由記述回答に基づいて、柔道実践の動機づけの多様性を明らかにした研究は見当たらない。

そこで、本研究では、大学生柔道競技者を対象に、柔道実践に関する動機づけの多様性を明らかにすることを目的とした。

【方法】

本研究では、大学生柔道競技者を対象者として質問紙調査を行なった。動機づけの分類は、自由記述回答で収集したデータを、KJ法を参考に分類した。

【結果】

対象者は、全日本柔道連盟に競技者登録をしている大学生柔道競技者 484 名から協力が得られ、未記入の項目があった者を除いた 471 名 (97.3%) を分析対象とした。

柔道実践の動機づけに関する自由記述回答を 3 グループによる KJ 法で分類した結果、7 つの志向（愛好志向、訓練志向、活用志向、関係志向、自尊志向、報酬志向、惰性志向）が得られた。先行研究では報告されていなかった動機づけも新たに指摘された。

【結論】

大学生柔道競技者を対象に柔道実践の動機づけを自由記述回答で調査した。その結果、先行研究では把握されていなかった動機づけを含めた 7 つの動機づけの志向が得られた。